

# Seishin Campus

216



## Contents

第54回聖心祭報告	…2p
海外語学研修報告・ASEACCU 報告	…3p
就職活動体験記	…4-5p
2010年度卒業の集い	…6p
USHひとつくり・まちづくりボランティア	…7p
課外活動団体紹介	…8-10p
Campus News	…11p
アジア・アフリカの難民・避難民展	…12p



聖心女子大学

University of the Sacred Heart, Tokyo

2018年(平成30年)11月30日発行

# 第54回聖心祭報告

学生担当副学長 川津 誠

10月20日(土)・21日(日)は、第54回聖心祭。土曜日の夕刻雨になったものの、両日とも祭り開催中は秋晴れに恵まれ、まさに秋天好日。絶好の学園祭日和でした。今年のテーマは「心」。自分や自國以外に軽い敵意を向けて自尊心らしきものを後生大事に守ろうとする、そんな社会に対する学生たちの純粋な問題提起が、改めて自分自身に目を向けようという呼びかけの中に込められていると感じました。とはいっても、そういう思いを胸に、日頃の活動を示すエネルギーや若者らしい祭りの盛り上がりは例年どおり。歌にダンスに興じる姿や真剣に世界が抱える問題を議論する姿は、滲刺と青春を讃嘆する聖心生の日常の姿を十分伝えていました。そういう姿の中でこそ、聖心の「心」が育まれていくのです。

実行委員会企画の玉木宏さんのトークショーに歓声を上げ、ヒップホップダンスに手を叩く一方で、琴の音に耳を傾け一服のお茶を楽しむ。学生の歌声にしばし時を忘れ、国際問題や障害者の痛みを思いやりもする。学園祭とはそのように多様で多彩な聖心生の姿そのものもあるようでした。4号館ではフェアトレード商品や東北産品等の販売も行われ、本学が全学的テーマとするグローバル共生や震災以降の東北支援を改めて考える機会を提供しました。

御来場者数はおよそ5,330人。売り上げの一部はカリタスジャパン、Save the Children Japan、陸前高田市に寄付されます。

祭の後は見事な撤収振り。ここまでが、まさに「聖心祭」でした。ではまた、来年。



10月20日(土)・21日(日)に行われた第54回聖心祭は大盛況のうちに終了いたしました。

昨年度は台風により様々な影響がございましたが、今年度は2日間ともお天気に恵まれ、大成功だったと思っております。

今年度はテーマを「心」と設定いたしました。学内最大の委員会である聖心祭実行委員会ですが、互いに意見を出し合い協力しながら1つの大きな儀式をやり遂げられたことは、一人一人の「心」が一つになった瞬間でした。

更に、今回は例年よりもご来場者数が増加しました。その理由として、学内の参加団体が増えたことや聖心祭のPR方法を改善したこと、他にも玉木宏氏のトークショーを開催したことなどが挙げられます。

また、多くのお客様にラッフルやパンフレットをお買い上げいただき、ラッフルにおいては完売致しましたことをお礼申し上げます。収益金はチャリティーに充てさせていただきます。

最後に、お越しくださったお客様、ご協賛企業様、支えてくださった学内関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



第54回 聖心祭実行委員長  
荻原 満美

# 海外語学研修報告

国際センター

2018年夏、7か国10大学で実施された  
研修に、55名の学生が参加しました。  
参加者の声をご紹介します。



カナダ

教育学科（初等教育学専攻）2年  
寺田 絹梨花



## フランス

国際交流学科 2年  
乾 桃子



振り分けられたクラスが自分に合っていないではと初めはかなり不安でしたが、先生のご指導も厚く、すぐにクラスのスピードに追いつくことができました。また想像していた以上にクラス分けが細かく、少人数クラスだったので参加しやすかったです。会話・文法・聞き取り・発音など日によって授業内容が少しずつ異なり、カルチャーも交えながら幅広く学ぶことができました。

## 台湾

人間関係学科 2年  
阿部 真衣子



3ヶ月や半年、1年と留学している人たちの中にお邪魔して参加する形だったので、学んでいない部分の自習が大変でした。その分勉強を頑張ることができました。ルームメイトと仲良くなつてからは夜市に行ったり、食事をしたりと楽しかったです。ルームメイトが韓国人だったので、コミュニケーションに中国語を使うしかなく、自然と中国語を話す機会が多くなりました。

## ドイツ

日本語日本文学科 2年  
日向 恵理



今回の語学研修が私にとって初めての海外であったために、ドイツだけでなく外国そのものの印象が変わりました。日本と比べると、日本の設備がさりげないけれどとても恵まれていたり、この制度は日本にもあった方がいいのではないかと感じたりと、異文化を理解していくうえでとても大きなきっかけになったのではないかと思います。



アメリカ

基礎課程 1年  
朝永 帆見



英語でコミュニケーションをとる楽しさを改めて感じ、英語の勉強に対するモチベーションがあがりました。授業では、日本の英語の授業とは全く違うフランクな大学生らしい英語の話し方、アメリカの文化など、文化とコミュニケーションをメインに学びました。授業のスタイルもアメリカンスタイルで自分からどんどん発言したり、現地の先生ともフランクな言葉遣いで話したり、とても新鮮でした。



韓国

心理学科 2年  
笠原 花音



韓国人の先生から、韓国語のみを使用した授業を受けることができ、とても力がつきました。韓国の歌や文化、ゲームを学ぶ時間もあり、とても充実していました。韓国語を話してのアクティビティが多かったので、韓国語を話すことに自信がつきました。現地の先生はとても熱心で優しかったです。韓国の放送局の見学や、クッキングスタジオで韓国料理を作る体験ができ、韓国文化に触れることができました。



イギリス

哲学科 3年  
細田 実緒



到着してすぐはネイティブの会話のスピードについていけず、かなり集中しないと聞き取れなくて、会話をするだけできなり疲れましたが、だんだんと聞き取れるようになりました。また、お金の計算にかなり苦戦しました。日本円よりも紙幣や小銭の桁が小刻みなので、細かい小銭がなかなかうまく使えませんでした。

## 2018年度 ASEACCU (東南アジア・東アジア カトリック大学連盟) 国際学生会議 報告

8月21日から26日まで、広島県にあるエリザベト音楽大学にて開催された ASEACCU 国際学生会議に聖心女子大学代表として参加して参りました。今回は、“Catholic Education and Peace Initiatives”というテーマで、カトリック大学における平和教育について話し合いました。

今年度は日本での開催だったため、スタッフとして参加の2名を含む計5名で参加しました。初日は、参加の方のお出迎えやオリエンテーションを行い、二日目以降はレクチャーを受け、振り返りと得た学びを形にしてプレゼンテーションを行いました。会議では、紛争や虐待など目に見える暴力だけでなく、貧困や環境破壊といった目に見えない暴力についても学び、生活の中からどう改善して平和に繋げていけるか深く考えさせられました。フィリピン・台湾・韓国・インドネシア・オーストラリア各国からの多くの学生と先生方とともに、一週間を通してお互いの生活・文化を共有し、親睦を深め合うことが出来ました。今回の経験を未来の「平和」を築くための糧に出来るよう努めたいと思います。

ASEACCU2018 参加学生一同



# 就職活動 体験記



キャリアセンターでは、学生一人ひとりがキャリアプランを立て、そのために自ら進んで行動し、キャリア形成しようとする意欲を生み出すことを目標にしています。



内定先  
ANA インターコンチネンタルホテル東京  
宿泊部

	1～2年次	3年次 4月～夏休み	3年次 9月・10月
就職活動のために生活は変えない。そのため早めの行動を。	もともとダンスの経験があり、それを生かせるミュージカル研究会に参加。英語を学ぶため2年生の夏にはイギリスのサセックス大学に短期留学。	課外活動のなかで学ぶ。ミュージカル研究会の夏公演で演出を担当したことは、人をまとめる力や自分の意見を相手に伝える大切さを学ぶ。	多くの企業のインターンシップに参加。部活動を続けながら約10社のインターンシップに参加し、学内の講座にも参加
内定のかぎは行動力。自分の目でみて感じること。	課外活動（茶道愛好会）やアルバイト（塾講師）、大学主催「震災復興支援ボランティア」に参加するなどやりたいことに積極的に取り組む。	ゼミでの学びが自身の成長に。夏休みにゼミで取り組んだ「大学生観光まちづくりコンテスト」に参加し、リーダーを経験。2年からは課外活動 SHRET にも参加。	キャリアカウンセラーと面談を重ねる。自己分析では他己分析との違いに葛藤があったが、一般職よりも総合職が向いていると言われたことが、次のステップへ進むきっかけになった。
面倒なことほど、チャレンジする価値がある。	課外活動は、アナウンス研究会と茶道愛好会に参加。ほかにも他大演劇サークル、映画制作など、今の自分に必要と思うことを選択しながら両立。	2年の終わりから就職活動を開始。5月にエントリーシートを提出。夏休みに3日間の NTT 東日本のインターンシップに参加。参加者の意識が高く、刺激を受ける。	インターンシップで働き方の多様性を学ぶ。「100×10チャレンジ」というインターンシップに参加。2週間で10人以上の社会人訪問するというチャレンジを経験。
就職活動は自分を知る絶好のチャンス。	課外活動（ゴルフ部）に集中。アルバイトもゴルフに関係したキャディーを経験。	就職活動のプランニング。3年生の春からキャリアセンターに通いはじめ、先輩の就職体験記を読むことで就職活動のイメージをつかみ、プランを立てる。	早期選考の企業をエントリー。面接を早めに重ねていくことで、自分の弱点や盲点に気付かされる。

## 進路支援システム 「Torch」

キャリアセンターでは、昨年秋に進路支援システム「Torch」を導入しました。このシステム導入により、ネット環境さえあれば、自宅からでもカウンセリングの予約やキャリアセンター関連情報（学内イベントスケジュール、大学に届いた求人票、就職活動体験記等）の閲覧が可能となり、学生には大変好評です。今後も継続的に機能を充実させていきます。



キャリアセンターの詳しい内容は左記 QR コードから公式 HP キャリアセンター ページに入ることができます。



大学入学当初は幼稚園教諭になりたいと思っていましたが、勉強を続けていく中で、「子どもが好き」というだけでは成り立たない仕事だと思うようになりました。また、教育学科で教育格差の問題を学んだことや、同じような恵まれた環境のなかで育っていると感じ方や考え方も似てくることに違和感を覚え、より多くの人とかかわることができる企業就職を希望するようになりました。物流の業界を選んだのは、限られた方々へのサービスではなく、どんな人たちに対しても平等に、その人たちの暮らしを支えることができる仕事だと思ったからです。

### 後輩にひと言

就職活動のために、何かを犠牲にするのではなく、それまでの自分の生活を守りつつ、そのなかの一つとして就職活動に取り組んで。そのためにも、準備は早めに！

### 後輩にひと言

参加することがおっくうに感じた説明会やインターンシップほど収穫があったので、面倒がらず、そういう時こそ積極的に参加すべき。

大学では心理学を学びたいと考えていましたが、基礎課程で学ぶなかで、発達心理学や臨床心理学よりも社会心理学に興味がわき、人間関係学科をえらびました。4年間の学びはとても楽しく、特にインタビュー調査でいろんな方にインタビューをさせていただいたことは、とても意味のあることだったように思います。

就職活動は、幅広く、さらに新規事業立案ができる仕事を求めていたので、その可能性の高い IT 系にしました。NTT 東日本では、通信というツールで新たな文化を創造してきたというお話をうかがい、そこにつよく惹かれ、最終決定につながりました。





国際交流学科  
高橋愛美さん

内定先  
佐藤製薬株式会社  
総合職



人間関係学科  
渡會いくみさん

内定先  
NTT 東日本  
総合職



教育学科  
古川佳奈さん

内定先  
大手物流会社  
総合職

3年次 11・12月	3年次 1月～4年	内定
<p>不安点や不明点はキャリアカウンセラーに相談。 企業ごとの仕事内容の特徴や自分に適した仕事などの相談をまめに。</p>	<p>気になる企業は、逃さずエントリー 11社にエントリー。 9社で個人面接。面接では、続けてきたパレエを披露することも。</p>	<p>6月末 4年間の大学生活で培った英語力と自己分析力で第一志望へ！</p>
<p>基準を設けて、業界をしづる。 卒業生の話を直接聞くキャリアセンター主催の業界ごと説明会には毎回出席。</p>	<p>OG訪問も積極的に開始。 約20名ほどの先輩と積極的に面会、あらたな人とのつながりが宝物に。</p>	<p>6月中旬 最終決定は、海外事業職に興味があり、海外に事業を展開していることがポイントに。</p>
<p>キャリアセンター主催のセミナーにはほぼすべて参加。 得られる情報は、もらはず吸収。 そこから自分で考えて取捨選択すること。</p>	<p>就職活動の目線を見直す。 通信系IT業界にしづる。 目的は、会社に入るというより、いかに生きるか。</p>	<p>6月末 会社員になるというよりも、自分のなかの多様性を生かせることに魅力を感じて最終決定。</p>
<p>インターンシップに参加開始。 5,6社のインターンシップに参加。 業界の方との面談も重ねる。</p>	<p>やりたいことを続けるために右年明けに業界をしづる。 約20社にエントリー。 不安材料は早めに排除。</p>	<p>5月末 部活で培った精神力、チームワーク、忍耐力をアピール。 本学から初の内定を勝ち取る！</p>

#### 後輩にひと言

やりたいこと、興味のあることは積極的に取り組んで。経験が多いほど、面接時の自信につながる。



もともと接客の仕事に興味があるので、就職活動では業種選びに迷うことはありませんでした。その分より深く業界研究に時間を割くことができたのでよかったです。

大学では、課外活動はミュージカル研究会に所属して、年に3回公演を行ってきました。3年生のときには演出を経験して、人をまとめるの大変さを学びました。

他にも災害復興支援ボランティアに参加したり、2年生のときには大学の短期留学プログラムを利用してイギリスで勉強したことなど、大学での学びは自分のこれから糧になると思います。

留学経験はありませんが、本学教育学科主催の「スウェーデンスタディツアーア」に参加するなど、文化や考えたの違いに直に触れて、視野を広げることの大切さを感じたことがキャリアプランを立てたときの大きなポイントとなりました。



製薬会社を選んだのは、本学主催の震災復興支援ボランティアに参加したとき、被災者のかたが、薬の入手に苦労されたとおっしゃっていたことや、SHRET（※）の活動で難民の方にお会いしたとき、医療についての相談が多かったことが印象的で、製薬会社で心のケアをつくめ、困っている方のお手伝いをしたいと思ったからです。

#### 後輩にひと言

何ごとも積極的に取り組んで。  
会社ごとのカラーは、訪問してはじめて知ることができる。OG訪問を含め、出会いを大切にしてください。

SHRET (Sacred Heart RET) 課外活動団体  
難民が中高等教育を受ける重要性を訴えていこうというビジョンのもと2002年に発足した、難民支援団体です。

#### キャリアセンターの おもな年間スケジュール

##### 1 年次

キャリアセミナー

##### 2 年次

インターンシップの探し方講座

##### 3 年次

#### 4月～6月

Uターン就職ガイド

グループディスカッション対策  
ワークショップ

業界・職種・企業研究セミナー

#### 9月～11月

就職活動スタートセミナー

自己分析講座

会社の見方・調べ方セミナー

就職活動イメージアップセミナー

就職用写真学内撮影会

履歴書・エントリーシート対策講座

筆記試験対策講座

4年次による就職活動報告会

#### 12月～3月

SPI 模擬テスト受験会

キャリアカフェ

～内定者と語ろう～

業界研究セミナー

就活必須講座

「業界・企業研究編、面接編」

##### 4 年次

求人紹介会

新社会人応援セミナー

# 聖心女子大学2010年度 卒業(61回生)の集い

## 卒業(61回生)の集いに寄せて

宮代会として、昨年度からの引き継ぎ事項でもあった2010年度卒業生(宮代会61回生)の東日本大震災の為に出来なかった卒業式を、大学との共催という最も望ましい形で実現出来ましたこと嬉しく思います。

10月27日土曜日「卒業の集い」当日は、前日までに準備万端整いお天気だけが心配でしたが晴れ女が大勢いたのでしょう、朝方に雨は止みお昼頃は少し暑い位の青空になりました。キャップ&ガウンを身に纏った61回生が、ご家族や久しぶりに再会した学友と宮代ホールやマリアンホール入り口で写真を撮ったり談笑する姿は学生時代そのままのようでした。一方で赤ちゃんや小さなお子様をお連れの方もいて7年という歳月を垣間みる思いもしました。

通常はマリアンホールで行われる卒業式を今回はより聖心らしさを感じられる聖堂で行いました。ご案内の葉書を送った当初は100名でも集まればいいわね、と話していたこの催しは最終的に230名ほどの参加者の集いとなりました。大学卒業後各人別々の人生を歩み出し、順風満帆の方もいれば困難を乗り越えた、或いは今が苦しい時という方もいらしたかもしれません。しかし皆が聖堂に入場時は沈黙を守り、司会の一回礼、の声で揃ってお辞儀をする光景を見て、マザーブリットの「学んだすべてのことを忘れてても後に残ったものが本当の教育の成果」という言葉を思い出しました。聖心スピリットは61回生にも確かに宿っていました。

宮代会会长  
ラウリア佳子



### あの日の“わたし”へのメッセージ

#### 今日に 乾杯

卒業式ができなくて  
残念に思っていた気持ちは7年半後に報われれるよ!  
改めて、卒業おめでとう!

#### FIGHT!

2011年のわたしへ  
卒業おめでとう!  
これから社会に出て  
大変なこともあるとい  
う出でてFIGHT!

#### 大学生活 は宝

卒業おめでとう。  
大学4年間は本当に一生の思い出!  
そう思える7年半だったよ!

#### 一生の 仲間!

あのとき、震災のこと  
も、今後の自分の人生  
も不安で、まったく想  
像できなかっただけど、  
聖心の友だちにはたく  
さん助けられるので、  
大事にしてください。

あの日は  
自宅に帰ることができず、  
大学で一夜を明かしましたが、  
化粧室には、化粧水やコットン、  
コンタクトレンズ洗浄液などが  
きちんと並べて用意されていて、  
とてもありがたかったことを  
覚えています。  
ありがとうございました!



## グローバル化時代に望まれること

### 寺中 平治 前学長

2010年度卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございました。ここで改めて申し上げさせていただきます。

卒業されてからの皆さんの歩んでいる道は、それぞれ異なっています。今大学でも社会でも、情報革命を背景として、グローバル化が叫ばれています。グローバル化とは、国や地域の枠を超えて、地球規模でのを考えていくことです。聖心女子大学の調

う国際化もこれに通じるもので。しかしグローバル化とは、理想としてはわかりますが、世界が一つとなり、一つの文化をもつことを意味しません。人間は置かれた自然環境と歴史により形成されます。したがって地域や歴史が異なるれば当然文化も異なってきますし、それを否定することはできません。

日本人の根底にあるのは「和のこころ」です。和は「仲よくすること」を意味します。日本人は和の精神によって、外国の思想や文化を排斥、非難するのではなく、それらに寛容であり、有和の精神で受け入れてくることが多かったといえます。このグローバル化が一層進む社会において活躍される皆さんに、聖心で学んだことを基礎に、他の国の人々や文化を理解すると同時に、日本の文化に誇りをもち、和の精神で、平和な世界を築かれることがあります。



森 未来さん  
2010年度卒業生

3.11を社会人目前で経験した私たちも30才の節目を迎えています。卒業以降たくさんの天災を受けながらも、都度東日本大地震を反芻しながら平成最後の年を過ごしているのは、私だけではないと想像しています。

学生として多くの方々に守られていたあの時とは違い、社会人としての数年を経た現在、自らの力で立ち、幸せな毎日をおくりたいこの願いを叶えることはこんなにも果てしないものかと、もがいた経験も少しばかり致しました。折角いただいた命ですから、慈しみの心をもって、自分と他者と手を取り合ってゆけたらと思います。

2011年の卒業式で謝辞を述べる機会を失ったことに心残りはありますですが、生きることの尊さを実感する今、自分自身をはじめ家族、友人、繋がりある皆さまの命が煌めいていることに心から感謝いたします。

慣れ親しんだ土地で  
当たり前の生活を送れることが  
どれほどありがたいことなのかが

心理学科 3年  
國吉 真由

除染作業はまだまだ時間がかかり、10年続く  
ということを聞いて、あらためてその大変さを知  
りました。 教育学科（教育学専攻）3年  
宮田 晴菜



## USH ひとづくり・まちづくりボランティア in 南相馬

本学では、2012年以降、岩手県陸前高田市において現地のNPO法人P@CTおよび日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）のご協力のもと、子どもたちに学びと遊びの場を提供する活動を行ってまいりました。そこでは、学生が現地のニーズを探りながら活動内容を企画・立案し、振り返りを行い、その記録を次回の学生に引き継ぎできました。この活動で蓄積されたノウハウを活かし、2018年度以降、福島県南相馬市に軸足を移し、活動を展開しています。

南相馬では、本学の教育理念に基づきながら、Gakuvoおよびカリタス南相馬のご協力のもと、子どもたちと一緒に遊んだり地域の方々のサロン活動に参加しています。この夏には夏祭りの一ブースを担当し、楽しい一時を現地の方々と過ごしました。南相馬では避難指示が解除されて間もない区域もあり、抱える課題は山積しています。学生一人ができるることはちっぽけかもしれません、仲間、そして地域の方々と一緒に幸せの明かりを灯してまいりたいと思っております。

菅原 健介（人間関係学科教授）、杉原真晃（教育学科准教授）  
市川 典子（マグダレナ・ソフィアセンター）



幼稚園での活動で、特徴的だと思ったことは、屋内に砂場が設置されていることだった。あんなに元気な子どもたちが外で思い切り遊べない時期があったことを思うと、とても心が苦しくなった。

人間関係学科 3年  
荻原 满美

今回、ボランティアに参加して、相手のために、何かのために自分から動くことの大切さを学びました。思っていてもなかなか行動に移すことは難しいですが、それは少しの勇気や決心で変わると思います。感じ方が変わる。どうにかしなければいけないと課題が見つかる。大きな進歩だと私は考えました。見て見ぬふりをしてしまうことがやっぱりたくさんあります。放っておけばどうにかなる。そうどこかで思っている自分がいます。その集まりが大きくなればなるほど、課題は課題のままで何も動きません。自分を含め、まず行動することをはじめたい。考え続ける、現実をみつめ続けることが大切だと思いました。

教育学科（初等教育学専攻）3年  
寺田 日菜穂

福島は津波の被害に加えて原発事故の影響を強く受けしており、故郷を奪われた人が大勢いる現状を知りました。実際に現地を視察した際に、除染された土がはいったトン袋が何個も置かれたままになっていたり、まだ入ることができない土地があったりと復興にはほど遠い現実がありました。メディアでは、新しい家や舗装された道路などが報道されていて、私はそれを見て、「復興は進んでいる」と思っていました。しかし、実際には、そういう場所はほんの一部であり、ほとんどは手つかずのところばかりでした。私の認識と現地の状況が大きく違うを感じ、もっと現実に目を向けなければいけないと感じました。

地震大国の日本は東日本大震災の教訓を忘れてはならないはずだし、これから時代を生きていく私たちの世代が一番忘れてはいけないと感じました。

基礎課程 1年  
三田村 陽菜



請戸漁港では、漁船がたくさん並んでいる様子を見ることができた。試験段階の漁港再開であるため、収穫した魚が流通に乗ることはないが、復興のスタートを感じることができた。

教育学科（初等教育学専攻）3年  
水木 菲那



# 課外活動団体紹介

さまざまなジャンルの課外活動団体が、それぞれ頑張って活動しています。今回掲載されていない団体も含めて54団体あります。

皆さん、応援してください！そして、各課外活動団体への入部を検討している方、活動の様子をご覧になりたい方は、遠慮なく各団体にアクセスしてみてください。

(学生生活課)

## 委員会



学生会役員会

入学式・卒業式をはじめとするさまざまな学内行事の運営、課外活動団体の統括を行う委員会です。学生ならではの視点で活動できる団体を目指します。



聖心祭実行委員会

約170名が所属し、幹部と6セクションで構成されています。毎年10月に行われる聖心祭の運営と企画を行っており、収益金の一部は慈善団体などに寄付しています。



年鑑編集委員会  
(YEAR BOOK)

大学創立以来、毎年発刊している伝統の年鑑を企画・編集しています。ほとんどの写真は、委員が一年間学内を駆け回って撮影したものです。毎年3月の発行をお楽しみに！



アナウンス研究会

部員全員が東京FM公認のDJ・MDライセンスを取得でき、年に3回以上の発表会では番組の企画や撮影などの活動を行う学内最大級の部活動です。



E.S.S.

英語コミュニケーションの向上を目的とした全国規模の団体です。部員はディスカッション、スピーチのどちらかに所属します。論理的思考力や企画力なども養えるのがE.S.S.の魅力です。



SCE  
(聖心異文化交流会)

ウェルカムパーティーやかるた大会など、学内の留学生との交流イベントを企画しています。また、国際フェスティバルに参加するなど、日々楽しく異文化理解を深めています。



聖心 Radio Station

隔週、広尾商店街にて生放送中！商店街と一緒に「広尾walk」も発刊しています。そして、現在は「渋谷のラジオ」にも部員が出演中!!



手作り小物クラブ

部員がイヤリングやネックレス、ストラップなどの小物を思い思いに製作し、年4回、チャリティデーや聖心祭などの機会に販売しています。



文芸部

創作活動を中心に部内誌を年2回ほど発行しています。皆で好きな小説について話したり、作品のアドバイスをしたり、アットホームな自由な雰囲気で活動しています。



## 体育系



YEM

大学公認ダンス部。聖心祭や自主公演など発表に向けて様々なジャンルに挑戦しています。部員のほとんどが初心者ですが、みんなで楽しく練習しています！



硬式庭球部

夏のリーグ戦に向けて、日々練習に励んでいます。大切な仲間と共に、充実した大学生活を送ってみませんか？経験者はもちろん、初心者の方も大歓迎です！



ゴルフ部

春、秋の団体戦に向けて週2回の打撃練習と週1回の筋力トレーニングを行なっています。部員同士で切磋琢磨しながら成長しあい、価値ある4年間を過ごしてみませんか？



### ダンス部

様々なジャンルのダンスに挑戦しており、「全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸」、「アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ」に出場しています。



### チアリーディング部

「人に元気を与える」をスピリットに年3回の選手権大会に出場。学内外での様々なイベントに参加しています。経験者の方はもちろん初心者の方も大歓迎です！



### なぎなた部

天道流木村有里先生ご指導のもと、技の鍛錬のみならず集中力や精神力を鍛え、武道ならではの美しい所作を身につけることができる部活です。



### 馬術部

自然豊かな勝浦の乗馬施設にて、騎乗レッスンや厩務などの活動を行っています。月に一度の活動なので、パートや他の活動との両立もしやすい！初心者から経験者まで大歓迎です。



### バスケットボール部

仲間と切磋琢磨しながら、バスケットボールを心から楽しんでいます。仲間同士の絆は強く、一人一人の存在を大事にしております。経験者や初心者も大歓迎です!!



### バドミントン部

初心者、経験者共に大歓迎！アットホームな部活で、週に一度OGのコーチから指導していただいています。



### バレーボール部

初心者から全国大会経験者まで幅広い経歴を持つ部員が所属しています。経験豊富な女性コーチの元、人生の大切な思い出を作りましょう!! 体育館でお待ちしています！



### ラクロス部

1987年に発足したラクロス部HEARTS。先輩にはラクロス日本代表も！

大学で青春したい方はぜひ！



## 公演系



### ANNY (轻音乐部)

年5回のライブと夏合宿を行っています。経験者はもちろん、初心者も大大大歓迎です！私たちと一緒にバンドしませんか？



### オーケストラクラブ

年2回の演奏会ではクラシックの名曲を、聖心祭ではポップスを演奏します。パートごとにプロの先生からご指導いただき、演奏会に向け充実した活動を行っています。



### グリークラブ

様々な公演の場で、ミサ曲に合唱曲、ミュージカルなど様々なジャンルの歌を歌っています。合唱初心者も伴奏したい方も大歓迎です！一緒に歌のある大学生活を送りませんか？



## 筝曲部

生田流白菊会家元をお迎えして、琴、三絃のお稽古をバレスにて行っています。11月には定期演奏会を開催いたします。



## 同好会 愛好会



### Earth in Mind

学内講演会への参加や企業訪問を通して、持続可能な社会を目指すために私たちに出来ることを楽しく学んでいます。また、本学のエコキャンパス化にも取り組んでいます。



### 園芸クラブ Greenthumb

Greenthumbとは「園芸の達人」という意味です。私たちは学内で花や野菜を育て、それらを加工したり食したりして自然に主体的に関わっています。



### 華道同好会

広山流御家元ご指導のもとでの、充実したお稽古を行っています。いけばなの基礎から学び、春の発表会や聖心祭では作品展示をします。



### クリケット同好会

イギリス発祥の世界的人気を誇るスポーツ、クリケットを始めてみませんか？部員は大学から始めた人ばかり。少人数で先輩後輩の仲もとても良いです。



### 茶道愛好会

裏千家の先生方をお迎えして、莊厳なパレス内でお稽古しています。聖心祭ではお茶会を開催しています。



### 書道愛好会

硬筆、毛筆、古典臨書、創作など幅広く練習できます。



### 日本舞踊愛好会

藤間流の先生のもと、きめ細やかで丁寧なお稽古。初心者の方も安心して取り組めます。またお稽古を通じ、美しい立ち振る舞いも身につきます。



### フランス語サークル

コルベイユ先生のご指導のもと、生きたフランス語を学んでいます。学習を通してフランスの文化に触れることを大切にしており、その魅力を感じ、伝える活動をしています。



### 朗読同好会

ミサでの聖書朗読、声劇、エチュードなどを日々の活動の中で行なっています。少人数ながらもアットホームな空間で一緒に朗読を通して表現する喜びを体験してみませんか。



### ドイツ研究会

Guten tag！調理実習・遊びやドイツフェスなどの課外活動を通して、ドイツ文化を学んでいます。ドイツ語未経験者もおりますので、お気軽にお越しください。



### M.S.S.S.

大学公認ボランティア団体です。手話や点字の勉強、施設の子どもたちとの交流を行っています。全体活動では、広尾商店街で「打ち水大作戦」などイベントを開催しています。



### リタジーサークル

大学創立当初に設立され、学内の宗教行事に携わってきた伝統ある団体です。学生ミサの運営やクリスマス・バジェントの主催など聖心ならではの行事に携わっています。



### 聖歌隊

毎週の学生ミサを始め、聖心祭、クリスマスコンサート、トーチライト・プロセッション等に向けコーチの指導の下、歌の練習をしています。殆どの部員が信者ではありません。

**【追悼ミサ】**  
11月20日(火)、逝去された聖心のシスター岡崎学長、ラウリア宮代会会长、そして卒業式を挙げられなかつた61回生の卒業の集いを大学と共に催行いました。240人以上の卒業生がキャップ&ガウンを纏いお聖堂に集まり、当時の学長寺中平治先生、

岡崎学長、ラウリア宮代会会长、そして卒業式を挙げられなかつた61回生の卒業の集いを大学と共に催行しました。240人以上の卒業生がキャップ&ガウンを纏いお聖堂に集まり、当時の学長寺中平治先生、

ではご指導くださった先生方と歓談いたしました。当日は大学の職員の方々と学生会からも多くの中川宜子さんとのスピーチとともに祈りの時を持ち、引き続ぎ茶話会でした。一方ならびにこの1年間にご逝去の連絡をいたいただいた方々のために追悼ミサをお捧げいたしました。



**【宮代祭】**  
9月8日(土)、第39回宮代祭を開催いたしました。100名余りの実行委員が4月からミーティングを重ね準備したホームカミングとチャリティを兼ねたお祭りです。改裝を終えたマリアンホールでのワントープルショップを始め、パレス見学ツアー、お聖堂でのOG会の演奏、バザー、ゲーム等盛り沢山のお祭りです。当日は学生の方々にご協力いただき、幼児への絵本の読み聞かせコーナーもありました。

聖心女子大学同窓会宮代会は会員の親睦と向上をはかり、大学の発展に寄与し、同時に社会への貢献を目的として活動しております。会館では学生の方々も参加いただけます。

## 宮代会だより

## 渋谷区と「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」(S-SAP協定)を締結



本学と渋谷区は、7月30日、包括連携協定「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」(S-SAP協定)を締結し、本学に長谷部区長を迎えて締結式を行いました。

この協定は、区内にある民間企業や大学がもつそれぞれの技術やノウハウを活かし、渋谷区と協働して地域社会の課題解決を図ることを目的としたものです。

協定締結により、本学がすでに実行しているボランティア活動に加えて、教育・生涯学習に関する支援、子どもや家庭を取り巻く社会問題の解決に関する支援などについて渋谷区と協働していきます。

大学改革推進課

## 札幌市と「UIターン就職協定」を締結



聖心女子大学はこのたび、札幌市と「学生UIターン就職促進に関する協定」を締結しました。これは、本学と札幌市とが相互に連携・協力し、学生の就職活動を支援し地域経済の活性化を担う人材を育成・確保することで地域貢献を図ることを目的とするものです。

9月21日に本学にて執り行われた締結式には、札幌市経済観光局雇用推進部長の金谷学氏をはじめ、札幌UIターン就職センター キャリアコーディネーターの嘉藤裕子氏、本学からは岡崎淑子学長、キャリアセンター長の大槻奈巳教授他が出席しました。

この協定締結により、今後は札幌市内の求人情報が入手しやすい環境となる見込みです。

キャリアセンター

## 学生の活躍

### 外務省主催 国際問題プレゼンテーション・コンテスト



国際交流学科 3年  
福井 春菜さん



この度外務省主催「国際問題プレゼンテーション・コンテスト」にて外務大臣賞を頂きました。テーマは広報や文化交流を通じて外国国民の日本に対する好感度や理解度を高める広報文化外交をどのように展開すべきかでした。国家間の衝突を避け外交を円滑化させるための外交である為、長期的に両国に有益な施策であることが重要であると考えました。そこでアフリカ諸国からの国費高校生留学生受け入れ制度の新設を提案致しました。近年人口増加を追い風に経済が拡大しているアフリカ諸国に世界各国が様々なアプローチをし、アフリカ諸国との関係構築を模索しています。私は日本の教育システムの質を活かし、人材育成の面においてアフリカ諸国との更なる良好な外交関係を構築できるのではないかと考えました。日々の講義やニュースを精読し、得た知識が積み重なり今回の結果に繋がったと感じます。今後も世界情勢や社会問題に対して自らの視点に立ち関心を持ち続けていきたいと思います。

## 子育て支援室（マーガレットルーム） が2号館1階にできました

保育士養成課程の設置に伴い、小さな子どもとご家族の居場所として、また学生が子どもと触れ合い理解を深める場として、子育て支援室をつくりました。

- 来年度より未就園児親子のための遊び場として定期開放できるように準備中です。
- 教育学科教員の専門性を生かし、子育てに役立つ催しを「わくわくプログラム」という名称で開催します。随時大学HPにて広報しますのでご注目ください。
- 親子の集いと憩いの場として教職員・学生・卒業生も利用できます。詳細は教育研究室までお問い合わせください。マーガレットの花言葉は「信頼」「真実の愛」。小さな子どもたちの健やかな育ちを少しでも支えられるよう、マーガレットルームを信頼と愛に満ちた空間に育てていこうと思います。どうぞ遊びにいらしてください。

河邊 貴子（教育学科教授）



## 平成30年度 第1回聖心女子大学協力会役員会報告

平成30年9月20日午後3時から本学ブルーバーラーで平成30年度第1回聖心女子大学協力会役員会が開催されました。議事に先立ち西村事務局長から、新たに選任された1年次生役員4名が紹介されました。岡崎名誉会長の挨拶に続き、濱口会長の進行の下、議題「平成30年度聖心女子大学協力会会長・副会長の選出について」が審議され、会長に現任の濱口敏行氏、副会長に現任の木村雅彦氏が岡崎名誉会長から推薦され、一同に諮られ承認されました。引き続き、大学からの報告事項として佐々木学務担当副学長および西村事務局長から大学の近況が紹介されました。

総務課

# Displaced People in Asia & Africa

## アジア・アフリカの難民・避難民展

2018年9月17日 [月] - 2019年3月15日 [金] まで

### 特設展示「武器をアートに」※～4月27日(土)



えひめグローバルネットワーク代表理事竹内よし子さんによる講演



講演会でのモザンビーク大使(左から2人目)によるご挨拶



ケスター作《時掛椅子》2012年 国立民族学博物館蔵



聖心グローバルプラザのBE\*hiveでは、難民シリーズの最終展示として「アジア・アフリカの難民・避難民展」が始まりました。タンザニアのニャルゲス・キャンプとバングラデシュのロヒンギヤ・キャンプで力強く生きる難民の姿を紹介したパネル、またバングラデシュのチャドカン(お茶屋)、アフリカの楽器やスポーツ用品、女性の衣装生地など、様々なものに実際に触れて学ぶことができます。

本展示の目玉の一つが「平成30年度国立民族学博物館公募型メディア展示事業」の支援を受けて、大阪の民博(みんぱく)やえひめグローバルネットワークなどからお借りした「武器アート」6点の展示です。武器で作られたアートですが、こ

れはアフリカ東南部の国であるモザンビークの民衆が内戦時から保有していた武器を銃や自転車などと交換して入手し、モザンビーク人アーティストがアートに作り替えたものです。実際に使われていた銃が平和を訴えるアートとして生まれ変わった姿を是非、ご覧ください。また、来場者の皆さんと展示対象を近づける試みとして、展示室中央部に2台の端末ビューアーを設置しました。そこでは、研究者がバングラデシュやケニアで撮影したフィールドワーク写真をお見せしています。是非、研究者の目を通したアジア・アフリカの人びとの生活に触れて頂ければと思います。

石井 洋子(人間関係学科准教授・プロジェクトリーダー)

聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ

主催●聖心女子大学グローバル共生研究所

特別協力●国立民族学博物館／特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

※平成30年度国立民族学博物館公募型メディア展示事業

#### ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

【募金に関するお問い合わせ先】

聖心女子大学管理部財務課／電話：03-3407-5811(代表)

E-mail:e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html>  
(「聖心女子大学 寄付金」で検索してください)

※Web画面からの申込み・クレジット決済も可能です。

